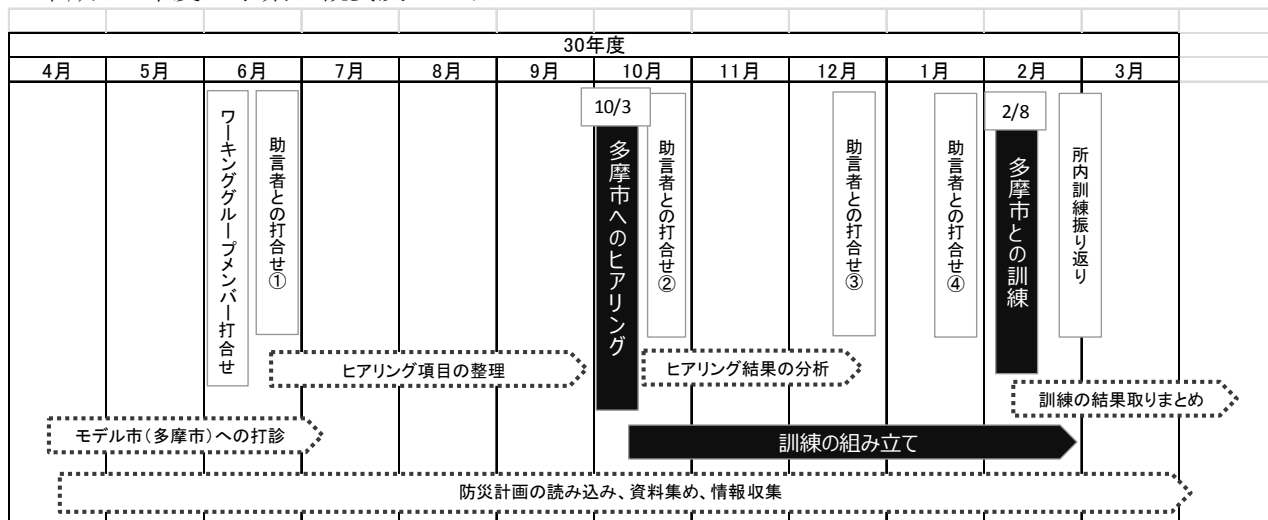


災害時における避難所アセスメント実施体制整備支援

南多摩保健医療圏

実施年度	開始 平成30年度、 終了（予定） 平成31年度
背景	災害時に各地で設置される避難所には、保健福祉・生活環境・医療ニーズをもった多くの避難者が集まる。各市がそのニーズに的確に対応するために、また保健所が市の対応を支援するためには、各市の災害対策本部が避難所情報を迅速に把握してアセスメントを実施する体制を整備することが求められる。南多摩保健所では、管内各市の防災計画に基づく避難所アセスメント実施体制整備支援に取り組むこととした。
目標	<計画全体の目標> 災害時に各市に多数設置される避難所から、避難所の情報（有症状者、防疫的状況、環境的状況等）が市の災害対策本部に確実に伝わることで、本部において的確なアセスメントが実施され、必要な対策が講じられる体制づくりを支援する。 1 各市地域防災計画に基づいた発災時の対応をヒアリングを通して具体的に共有する。 2 各市において災害時における避難所アセスメント実施訓練を実施する。（多摩市は30年度に実施済、日野市・稲城市は31年度に実施予定） 3 以上の結果をもとに、避難所アセスメント実施のために、各市災害対策本部の下に立ち上がる各対策部間で必要な情報の伝達、共有が効果的に実施されるための方策を検討する。
事業内容	1 モデル市における災害時のアセスメント実施体制に関する現状把握（30年度） 多摩市をモデル市としてヒアリングを実施し、また多摩市総合防災訓練に見学参加することで現状を把握し、ニーズ・課題を抽出した。 2 避難所アセスメント実施訓練の組み立て、内容の検討（30年度） 3 多摩市避難所アセスメント実施訓練を実施（30年度） 災害時に避難所で対応を求められる課題について、多摩市地域防災計画に基づき、市災害対策本部のもとに立ち上がる各対策部及び保健所間で連携を行いながら対応策を検討する訓練を実施した。 4 多摩市避難所アセスメント実施訓練の検証（31年度） 訓練の分析結果に基づき、避難所等の情報の伝達、共有や連携体制に係る課題抽出し、保健所との連携も含め、アセスメント体制強化について検討する。 5 日野市・稲城市避難所アセスメント実施訓練の組立と実施（31年度） 多摩市と同様の訓練を日野市、稲城市で実施。各市の体制整備を支援する。
評価	○多摩市総務部防災安全課、避難所の管理運営体制に関わる教育振興課、避難所の健康管理に関わる健康推進課の3課へのヒアリングを実施した。これにより、発災時の具体的な市の対応を共有することができた。 ○避難所で対応を求められる課題を想定した実践的な訓練を組立て実施した。 ○訓練では、各対策部及び保健所班の情報処理方法等について共有、避難所アセスメントを的確に行うには、各部署の業務内容及び権限について相互理解が重要であること、そのためには、平常時からの連携強化が鍵となるという気づきを得た。 ○災害医療との連携を検討するため、地域災害医療コーディネーターが保健所班にプレイヤーとして参加した。今後の保健と医療の連携・協働体制構築の参考となった。
問い合わせ先	南多摩保健所 企画調整課 電話 042-371-7661 ファクシミリ 042-375-6697 E-mail S0000344@section.metro.tokyo.jp

《平成30年度 事業の概要及びスケジュール》



《事業実績》

I 多摩市における災害時のアセスメント実施体制に関する現状把握調査

1 多摩市総合防災訓練・避難所運営訓練への見学参加

- (1) 日 時：平成30年9月29日（土曜日）
第1部 15時から、第2部（避難所運営訓練）17時から
- (2) 会 場：多摩市内の中学校、総合体育館
- (3) 参加者：南多摩保健所長、企画調整課長、庶務担当課長代理
- (4) 内 容：災害発生時に避難所となる総合体育館において避難所の設営・運営状況の把握及び避難所の保健衛生情報の伝達方法について聴取

2 災害時における体制についてのヒアリング

- (1) 日 時：平成30年10月3日（水曜日）9時30分から11時30分まで
- (2) 会 場：多摩市役所内会議室
- (3) 参加者：多摩市防災安全課（発災時は統括対策部）3名、教育振興課（発災時は避難所施設対策部）2名、健康推進課（発災時は福祉医療対策部）4名
- (4) 内 容：
 - <発災時>
 - 各避難所からの状況報告の流れについて
 - ・報告された避難所状況報告のその後の活用について
 - ・避難所の保健衛生に関するニーズへの対応について
 - ・災害対応にあたり南多摩保健所に求める役割について
 - <平常時>
 - 災害対策本部立上げの訓練や研修の実施状況について
 - 避難所運営に関する訓練や研修の実施状況について
 - EMIS（広域災害救急医療情報システム）の活用方法

3 現状把握調査より

- ・多摩市では避難所訓練が毎年行われており、発災時の避難所の設置・運営においては、自治会等の住民中心に運営できるよう役割分担が行われている。
- ・避難所の情報をどのように災害対策本部に伝達していくか等の具体的な方法については、現在は検討の段階である。
- ・避難所からの情報は、一旦災害対策本部で集約した後に、必要に応じて各対策部に采配する体制となっている。
- ・保健所の役割が不明確であるという意見があったことから、保健所の活動方針を明らかにし、市と共有しておく必要がある。

Ⅱ 避難所アセスメント実施訓練の組立て

訓練の組立てにおいては、多摩市地域防災計画を把握するとともに、ヒアリングで得た情報を踏まえ、同計画に沿った訓練を検討した。

1 検討体制等

ワーキンググループ（企画調整課職員で構成）を検討の中心に据え、また、所内連絡会（管理職・ライン課長代理で構成）を拡大ワーキンググループとして情報の共有及び連携を図った。ワーキンググループは、延べ 19 回の検討会を開催、うち 4 回は助言者を交え、以下の作業を行った。

- ・訓練スケジュールの作成
- ・訓練シナリオの検討・作成
- ・イベントカードの精査・作成
- ・連絡カードの検討・作成
- ・多摩市の訓練参加者との連絡調整
- ・訓練オリエンテーションの内容の検討
- ・訓練のデモンストレーションの実施

2 組立てにあたり重視した点

- ・情報伝達ルートや避難所アセスメントの実際について、多摩市地域防災計画に沿ったものであり、発災時の状況を疑似体験できる訓練内容であること。
- ・事前ヒアリング結果から、多摩市では避難所を取りまく各対策部横断的な訓練が未実施であったことから、各対策部を越えた対応が必要となる内容であること。
- ・多摩市地域防災計画に則り発災時に立ち上がる 9 つの対策部のうち、避難所アセスメントを行う上で重要な役割を果たす統括対策部、避難所施設対策部及び福祉医療対策部を設定すること。ここに保健所を加え、実施すること。
- ・各班メンバーは、実際に対応することとなる各所管課職員とすること。

以上を踏まえ、訓練で対応していく課題（イベントカード）の候補を抽出し、デモンストレーションを通して精査し、最終的に 42 の課題（イベントカード）を準備した。

3 訓練概要

（1）被害の想定

20XX 年 2 月 8 日（金）午前 8 時に、立川断層を震源とする M7.4 の地震が発生したとし、多摩地区を中心に被害が拡大、道路・橋梁・上下水道が損壊、家屋の倒壊や火災等により多数の負傷者が出ている。発災直後は、指定避難所からの応援要請、病棟倒壊の恐れによる病院からの支援要請等の課題が次々に発生する。

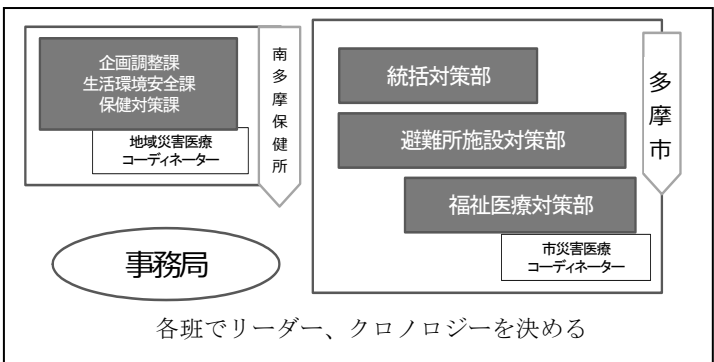
（2）訓練の場面

訓練①：発災から 24 時間まで、訓練②：発災から 72 時間以降

（3）訓練方法

発生した課題に対して、多摩市地域防災計画に則り、それぞれの班が適切な所管部へ状況を伝達・共有・調整し、連携を取りながら対応していく。

【配置図】



【スケジュール】

時間	内容
13:35～13:50	オリエンテーション
13:50～14:35	訓練① 発災から 24 時間まで
14:35～14:50	振り返り・チーム内作戦会議
14:50～15:00	訓練② 発災から 72 時間以降
15:50～	振り返り・講評
16:30 終了	

(4) 課題への対応、情報伝達のルール等について

① 被害状況等の共有

- ・「情報カード（※1）」は、被害状況を共有するためのもので、事務局から各班へ配布する。

【※1 情報カード】

＜情報カード＞	＜情報カード＞
多摩市は、東京都を通じて防衛省・自衛隊に対して災害派遣を要請。避難所を立ち上げるとともに各部署に対して現状の把握を指示した。現在、多摩市全域で水、ガスの供給が停止。和田地区以外では電気は供給されている。固定電話、携帯電話は輻輳しており、つながりにくい。	道路警戒情報として、中央自動車道は、八王子IC～調布ICで通行止め。国道18号は、関戸橋点検のため通行止。川崎街道、野猿海道は町田方面で渋滞となっている。私鉄各線は全線不通となっており、朝間ラッシュとも重なり、京王、小田急永山駅に約1000人、多摩センター駅に約2000人程度の乗客がとどまっている。

② 発生する課題への対応

- ・「イベントカード（※2）」は、各班に持ち込まれると想定される課題が記載してあり、概ね5分ごとに各班へ事務局から配布する。
- ・「連絡カード（※3）」は、各班に持ち込まれた課題（イベントカード）の対応についてアセスメントを行ったのち、必要に応じて、他の班に依頼や調整、情報提供を行うため、各班が発行して使用する。

これらのカードを受け渡しすることで課題への対応を進める。（※4 参照）

【※2 イベントカード】

イベント 1	イベント 32
発信者：指定避難所 計10カ所 受信者：避難所施設対策部 登校時間と重なったため、指定避難所となっている小中学校の教職員だけでは避難者の受入調整まで手が回りません。至急、市より職員を派遣してください。尚、出勤している教育部職員は5名とします。派遣は指定避難所東愛宕中、青陵中等10カ所から要望が来ています。 カードの流れ（ の中に対策部名を書いてください） → → → この件について、対応する部署が以下に対応内容を書いてください。 連絡カードを使用する際は以下に送り先を書いてください。	発信者：巡回保健師班 受信者：福祉医療対策部 巡回保健師班より、避難所の寒さ対策と衛生状態が十分でないことから、複数の避難所で高熱とひどい咳の症状の人が複数いるとの情報が入っています。特に、和田地区の多摩第二小学校と和田中学校では、電気ガス水道も不通で、避難者には妊産婦・高齢者も多いため、対応を急いでほしいとのことです。 カードの流れ（ の中に対策部名を書いてください） → → → この件について、対応する部署が以下に対応内容を書いてください。 連絡カードを使用する際は以下に送り先を書いてください。

【※3 連絡カード】

＜連絡カード＞

本訓練において、関係部署との情報交換を行う場合は、以下に記入の上、提出願います。

発信

(1) 発信者：

(2) 連絡先：

(3) 時 間： ※訓練時間（現在時）を記入

(4) 目 的： 1 情報提供 2 依頼

返信

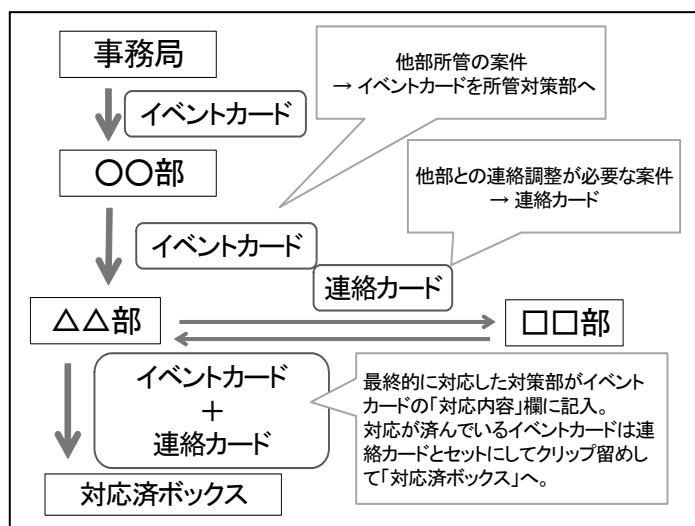
(1) 発信者：

(2) 回答先：

(3) 時 間： ※訓練時間（現在時）を記入

(4) 回答内容

【※4 カードの流れ】



Ⅲ 多摩市避難所アセスメント実施訓練の実施

- 1 日 時：平成 31 年 2 月 8 日（金曜日） 午後 1 時 30 分から午後 4 時 30 分まで
- 2 会 場：多摩市健康センター内会議室
- 3 目 的：多摩市地域防災計画に沿った避難所アセスメントを行うことにより、発災時、避難所のニーズを迅速に把握し、適切なアセスメントを実施するために必要なことを関係者間で共有する。
- 4 参加者：多摩市、保健所、災害医療関係者 計 26 名

災害医療関係者※	多摩市			南多摩保健所
	防災安全課	教育振興課	健康推進課	
3	3	2	9	9

（※市災害医療コーディネーター、地域災害医療コーディネーター、日医大多摩永山病院より災害医療担当）
〈職種の内訳〉

事務	保健師	衛生監視	医師	歯科医師	栄養士	その他
9	9	3	2	1	1	1

- 5 助言者：国立保健医療科学院 健康危機管理研究部部長 金谷 泰宏氏
- 6 訓練中の様子

【統括対策部】



【避難所施設対策部】



【福祉医療対策部】



【統括対策部班のクロノロジー】

時刻	From	To	内容
13:30			発災
13:35	厚木市	福生市	厚木市から福生市へ避難
13:40	福生市	福生市	福生市内の避難所（厚木市）
13:45	福生市	福生市	福生市内の避難所（厚木市）
13:50	福生市	福生市	福生市内の避難所（厚木市）
14:00	福生市	福生市	福生市内の避難所（厚木市）
14:05	福生市	福生市	福生市内の避難所（厚木市）
14:10	福生市	福生市	福生市内の避難所（厚木市）
14:15	福生市	福生市	福生市内の避難所（厚木市）
14:20	福生市	福生市	福生市内の避難所（厚木市）
14:25	福生市	福生市	福生市内の避難所（厚木市）
14:30	福生市	福生市	福生市内の避難所（厚木市）

【イベントカード等のまとめ】

イベントカード数	42
発災から 24 時間	14
発災から 72 時間以降	28
情報カード発行数	10
連絡カード発行数	52

7 訓練まとめ

(1) 参加者アンケート（自由意見）より

<統括対策部班>

- ・災害時の役割分担と権限委譲に関する事は今後の活動に活かせる。
- ・想定外の対応をすることにより自分のレベルアップにつながる。
- ・情報の収集と発信のタイミングが重要であることを感じた。

<避難所施設対策部班>

- ・これまでの訓練は避難所の設営に重点が置かれていたので、他対策部との連携、情報伝達方法や各避難所との連携の在り方など様々なことに意識を向けなければならないことを改めて実感した。
- ・保健所と合同で行い、多面的な視点を得ることができた。
- ・今後のマニュアルの見直し、運営の方法など改善につながる経験となった。

<福祉医療対策部班>

- ・様々な情報を混乱する中で適時判断対応していく必要があった。
- ・各部署との情報共有や決定権をどの部署が持つのか共有しておくことが重要。

(2) 考察

訓練振り返り、参加者アンケート、助言者等から得られたキーワード

「相互理解」、「連携」、「権限の委譲」、「委譲する権限の範囲」

① 連携・相互理解

発災時には一つの対策部で対応できる案件は少なく、対策部間の連絡調整が密に必要であり、避難所アセスメントを的確に行うには、各部署の業務内容について相互理解が重要である。そのためには、平常時からの連携強化が鍵となる。

② 権限の委譲と範囲

次々とイベントが起こる中では、すべての事案について統括対策部の判断、指示を仰ぐことは不可能であり、権限の委譲が必要である。また、権限委譲にあたっては、そのタイミングや範囲が重要である。

以上について、多摩市と共有することができた。保健所としては地域防災計画に則った具体的な対応訓練が重要であることを再認識し、また地域災害医療コーディネーターの参加が得られたことから、今後の保健と医療の連携・協働体制構築の参考となった。

8 今後の取組み

日野市、稲城市の地域防災計画に基づき災害時の避難所アセスメント実施体制に関する現状把握を行い、訓練を実施する。また、3市での訓練の分析結果に基づき、避難所等の情報の伝達、共有や連携体制に係る課題を抽出し、保健所との連携も含め、避難所アセスメント体制強化について検討していく。